

ウィズコロナの時代を迎えて



一般財団法人 日本ウエザリングテストセンター
専務理事 相沢 幸一

私が所属している日本ウエザリングテストセンター（JWTC）は、耐候性試験が専門の第三者試験機関です。試験場は日本の環境を代表する3か所（銚子、宮古島、旭川）に設置されており、日本塗料検査協会が実施する JIS K 5600-7-6（屋外暴露耐候性）に基づく塗膜の耐久性試験における屋外暴露試験を長年実施しております。

新元号「令和」の2年目は我々試験機関にとってもこれまで経験しない試練の年になっております。令和2年1月頃から中国武漢由来の新型コロナウイルスの感染が国内で広がりはじめ、クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号では乗客・乗員に大きなクラスターが発生し死者も出ました。この頃はまだ一部の他人事の感がありましたが、3月下旬に志村けんさんが犠牲になった頃から新型コロナウイルスの感染拡大は身近な存在として認識されるようになりました。政府対策委員会も4月上旬には緊急事態宣言を発令しましたが、新型コロナウイルスは瞬く間に日本国内全域、全世界に広がり、日本経済のみならず世界経済を圧迫して停滞させるかつてのペストを彷彿させる大事件に発展してしまいました。期待されていた2度目の東京オリンピックも1年延期の憂き目となりました。現在の科学技術では10数時間あれば地球上のどこにでも楽に移動できる便利な世の中ですが、原始的なウイルスにとっても人間を媒体として容易に世界中に拡散できる大変便利な世界になっているようです。

新型コロナウイルスは経済活動を停滞させただけでなく、その感染防止対策によって私たちの生活様式を強制的に変更しております。「三密を避ける」、「マスク着用」が当たり前になり、また、「Tele-work」、「リモート会議」などのIT技術を活用した仕組みづくりが求められております。我々の事業活動でもこれらを常に意識して進めなければなりません。「リモート会議」は、これまでなかなか定着しませんでした。実施してみれば、遠隔地からの参加が簡単に得られ、予め議題を明確にして短時間で進めることができる便利なツールと気づきます。私たちは、今後はウィズコロナで行動していかなければなりません。当分後戻りすることはないであろう新生活様式を積極的に取り入れることが、業務改革、効率化、経費節約のための絶好の機会を得ていると考えますと、今回の厳しい試練を乗り切っていくモチベーションを高めることができるのではないのでしょうか。

日本塗料検査協会は令和2年で創立65周年を迎えられました。私どものJWTCも創立50周年を迎え、半世紀の節目となっております。両機関にとって創立以来のウィズコロナの新時代に対応し、知恵を絞って乗り切っていきたいと思っております。